

研究区分	教員特別研究推進 教育推進
------	---------------

研究テーマ	専門職を目指す学部生に対する実践知を習得できるキャリア形成プログラムの提案と臨床栄養師有資格卒業生のリカレント教育プログラムの構築				
研究組織	代表者	所属・職名	食品栄養科学部・教授	氏名	新井 英一
	研究分担者	所属・職名	食品栄養科学部・教授	氏名	桑野 稔子
		所属・職名	食品栄養科学部・教授	氏名	市川 陽子
		所属・職名	食品栄養科学部・講師	氏名	串田 修
		所属・職名	食品栄養科学部・助教	氏名	川上 由香
		所属・職名	聖隷浜松病院・臨床准教授	氏名	鈴木 里香
		所属・職名	藤枝市立総合病院・臨床教授	氏名	篠原 由美子
		所属・職名	静岡県立総合病院・栄養管理室長	氏名	高橋 玲子
		所属・職名	静岡県立こども病院・栄養管理室長	氏名	鈴木 恭子
		所属・職名	静岡市立静岡病院・栄養科長	氏名	山内 浩之
	発表者	所属・職名	食品栄養科学部・教授	氏名	新井 英一

講演題目	専門職を目指す学部生に対する実践知を習得できるキャリア形成プログラムの提案
研究の目的、成果及び今後の展望	<p>管理栄養士の学部教育カリキュラムでは、限られた履修時間であるため、学部生における専門職としての自己効力感を高め、「実践スキル」を得られる実習・演習体制は十分に整備されていない。また、卒業した実践指導者においても、業務時間外にて、知識・スキルをアップデートし、特に、現場における課題解決や新たなシステムの創出を行う必要があるが、それらに繋がる環境も整備されていない。そこで、本研究の目的は、これまで取り組んできた教育プログラムをより発展した「演習」プログラムを運用し、議論する場（環境）を整備し、異なる知（実践指導者と学生）の共創を通じて、新たなイノベーティブな人材の育成や知の創出につなげることが可能であるかを検証した。</p> <p>本演習には、急性期医療施設、介護老人保健・福祉施設、フードマネジメント分野のそれぞれの領域の実践指導者を招聘し、栄養ケア・マネジメントの活用実践例を、具体的な事例を通して学ぶ実践演習プログラムを運用した。内容としては、病院での給食経営マネジメント力や栄養管理能力、在宅医療・介護を見据えた地域包括ケアにおけるネットワークづくりとそのための交渉術やコミュニケーション能力醸成につながる講義とグループワーク、実践指導者より現場の課題を聴講し、フリーディスカッションを実施した。その後、教員より実践指導者にヒアリングを行った。</p> <p>本プログラムを通じて実践指導者と学生と一緒に集い演習や議論をすることで、インターンシップとは異なる臨場感を体験し、気づきや考える力といった応用力の醸成に繋がったと考えられた。また、フリーディスカッションでは、現場の課題解決の糸口を見出すことや、研究のシーズに繋がること、さらに新たなアイデアや仕組みづくりの創出にも繋がり、学生と現場の方々融合する意義を見出すことができ、新しい教育プログラムの構築にも繋がる可能性が考えられた。</p> <p>今後、臨床、福祉分野のみならず、管理栄養士の就職先でもある、栄養教諭や行政（公務員）といった多岐の分野に拡大して実施し、専門職としてのキャリア形成の基盤へとつなげるための実践的な演習プログラムの構築が必要である。さらに、インターンシップと連動した教育環境整備の推進を図る必要も考えられる。</p>